

「メキシコ料理と音楽を楽しむ会」を開催しました
—メキシコ人映画監督を招待—

11月22日（木）、当親善協会会員、並びに関係者40名が参加して、「メキシコ料理と音楽を楽しむ会」を開催しました。

今回も会場は広島市中区袋町のメキシカン&アメリカン“Graffiti”とし、演奏はサルサバンド“エル・コンボ・デ・ラ・パス”にお願いしました。この会場、演奏の組み合わせ開催は、今回で6回を数え、当親善協会のイベントとして定着してまいりました。



会の冒頭挨拶をする金井会長

特別ゲストとして、11月23日（祝・金）より3日間、NTTクレドホールや横川シネマなどを会場として開催された広島国際映画祭に、同映画祭の提携先であるグアナフアト国際映画祭より推薦されたメキシコ人映画監督の3作品が上映され、その映画監督を招待いたしました。

短編映画「レット・イット・ビー」のチェマ・ノヴェロ監督、中編映画「三つの滝の流れる広島」のマウリシオ・ノヴェロ・ハルケ監督のお二人には、参加いただきましたが、長編映画「ママシータ」のホセ・パブロ・エストラーダ・トレスカーノ監督は、飛行機の到着が遅れ残念ながら参加いただけませんでした。



短編映画「レット・イット・ビー」の説明をするチェマ・ノヴェロ監督（右側）



中編映画「三つの滝の流れる広島」を説明するマウリシオ・ノヴェロ・トレスカーノ監督（右側）

また、今回は当親善協会の会員でありますカップコーヒーのアベックス様が11月より販売を開始されたメキシコ豆のレギュラーコーヒーが振舞われました。

会の後半には、すっかり恒例となりました当親善協会歌「シェリトリンド」、「カミノ・デ・グアナファト」を参加者で合唱し、この光景には映画監督お二人とも大変驚かされていました。



「シェリトリンド」、「カミノ・デ・グアナファト」を合唱する参加者

11月23日（祝・金）から25日（日）まで開催された広島国際映画祭において、メイン会場となりましたNTTクレドホールのロビーに広島県とグアナファト州との友好提携やメキシコ選手団受け入れの様様などを紹介するフォトパネルを展示しました。

